

# よろしくお願ひします。～新人紹介～



4階病棟  
山本 真貴子

40代半ばで一念発起し、看護師になりました。仕事を覚えるのは大変ですが、日々コツコツと頑張ります。



栄養科  
山口 彩香

4月から栄養科に配属になりました山口です。まだまだ分からないことだらけで周囲の方に助けていただければいいのですが、日々勉強し、成長していけるよう頑張ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

## 院長の独り言⑳

～「There is no problem, There is a solution.」～

6月の診療報酬改定は、患者さんへの自己負担増もさることながら、医療機関の費用負担、事務作業負担増は大きくなり当院の経営状態はさらなる悪化に拍車がかかった。私だけでなく当院の事務長、総師長など病院幹部は、日々頭を悩ませている状況である。

このようなにっちもさっちもいかない時、私がよくすることは、猫たちを撫でたり、動きを眺めながらできるだけ遠くの視点で問題の全体を俯瞰することである。人間と異なる行動パターンをとる猫たちを見たり、撫でたりすることで自然と心が落ち着いてゆく。

猫ではなくゴリラの観察を通して、様々な研究成果をあげられた元京大総長の山際寿一先生は、「人生で大事なことはみんなゴリラから教わった」「京大総長、ゴリラから生き方を学ぶ」などの著書でも大変有名な人類学者であり霊長類学者である。生き方についてもさることながら、相手の立場にたつてものごとを考える「共感性」でもって対話を重ねる「対人力」での解決の重要性が書かれており、問題解決を悩んでいる方や生き方に不安を感じている方々に参考になる本である。「人生のなかではきっとたくさんの困難に出会うでしょう。しかし、どんな困難に直面しようとも必ず解決策がある。There is no problem, There is a solution.」今のくわみず病院に一番必要な言葉で励まされる言葉だった。山際先生とゴリラの皆さんからのお知恵で何とか良い方向性に持っていきたい。

梅雨のひと時、我が家の猫たちは初めての傘の出現に大興奮だった。ねえねえ、マミー、これなあに??何して使うの?? 皆さま、猛暑を乗り切ってくださいね。



新しい隠れ家のベルとコハル



傘の中で遊ぶコハル



傘の中で遊ぶハル



社会医療法人 芳和会

# くわみず病院だより

No.77

発行責任者：池上 あずさ 発行所：社会医療法人芳和会くわみず病院 〒862-0954 TEL 096-381-2248 住所：熊本市中央区神水1-14-41 <https://www.kuwamizu.jp/> SAS予約sas\_ctr\_apt@kuwamizu.jp

## くわみず病院理念

1. 無差別・平等の医療と福祉の実現を目指します
2. 保健予防・急性期から慢性期、リハビリ、在宅医療まで人の生涯にかかわる医療と介護を提供します
3. 安心して住み続けられるまちづくりの拠点となります



## CONTENTS

- 1 「患者さんとともに喜ぶ」看護の魅力!
  - 2 第41回 くまもと健康まつりを開催しました
  - 3 診療報酬改定について
  - 4 訪問診療で「住み慣れた場所で療養したい」を支えます!!
  - 5 地域医療部が本館1階に移転しました。
  - 6 健診センターリニューアルについて
  - 7 駐車場管理委託について
  - 研修医師紹介
  - 8 水俣協立グループは新たな一歩を踏み出します
  - 9 病院ホームページをリニューアルしました!
  - 10 新人紹介
- 院長の独り言

## 「患者さんとともに喜ぶ」看護の魅力! 総看護師長 竹丸 恵子

2023年4月に総師長に就任いたしました。5月に新型コロナウイルス感染症が5類となり、世間はイベントや旅行者でにぎやかになりました。昨年、夏には第9波、冬にはインフルエンザとともに第10波の流行がありました。2024年春以降はようやく感染者が減少し、入院患者さんの家族面会が可能となり改めてご家族の力を再認識しました。しかしそれも東の間、7月中旬現在再びコロナに罹患する人が急増しています。

コロナ流行の波に次々と見舞われたこの4年間で医療・介護現場は大きく変わりました。5類になり特例措置や公的支援、医療費公費負担は終了しましたが、感染力は変わらないため医療・介護現場では感染対策の継続が必要であり病院の負担は、重くのしかかっています。高齢の患者さんは入院という環境の変化だけで「せん妄」になることが少なからずあり、コロナ陽性の場合「病室から出られない」ことで一層混乱してしまいます。転倒の危険もあり、安全に治療、看護を行うことは医療従事者にとっても患者さんにとっても大変なことです。

2023年度末から今年度にかけて当院では看護師の退職が続きました。全国的にも看護師の離職・不足は深刻で、看護師不足から病棟閉鎖に至る病院も出ています。熊本地震の際は皆で力を合わせて乗り越えましたが、コロナ禍では「3密を避ける」ためコミュニケーションの機会を大幅に奪われたこと、職員や患者を守るために看護とは相反する「隔離」や「行動制限」を日常的に行わざるを得ない葛藤などから看護現場での精神的疲弊が大きかったと感じます。

しかし、時代は「ウィズコロナ」です。感染対策のポイントも分かってきました。改めて一人ひとりの患者さんとの丁寧なかかわりを通して「やっぱり看護っていいよね」「私たちの目指す看護・ケアはこれだね!」と確信できればと思います。先日、院内の看護部会にて、高齢者への点滴自己抜去予防の取り組みや、看取りに対する看護師の思いについての研究、外来での在宅療養支援システム構築に向けた取り組みなどの発表がありました。それぞれの部署の課題改善や役割・特徴を捉えた取り組みがされており、忙しく大変な中でも患者さんに寄り添う看護集団であることがとても誇りに思える内容でした。

92歳の現役看護師、川嶋みどりさんの言葉を紹介します。「人間が人間をケアすることにも最も意味があるのです。今、多くの人が他人に無関心になって、気づく力が低下している。すべての人が相手を気遣って自分には何ができることは何かを考える。社会的な弱者、困っている人に何かしてあげたい。これは人間にそなわった大事な本能です。ケアする心を取り戻す。(中略)人間は元来、分け合うもの。ケアの心はそこから始まっています。人の役に立ちたい。それは人間の本質です。」

からだや精神的、社会的なつらさを抱える患者さんの苦痛が緩和したとき、安心して過ごせる場所へ退院できたとき、「患者さんとともに喜ぶ」という体験をし「達成感」「やりがい」という形で私たちも「ケアされる存在」になっているのではないのでしょうか。その経験や学びを積み重ねていくことで「私たちの看護、私たちの病院がここにある意味に確信が持てる」と思います。

# 第41回 くまもと健康まつりを開催しました

放射線科 園井 啓之

5/12(日)に第41回くまもと健康まつりを昨年に続き健軍商店街アーケード内で開催しました。メインテーマは、第1回から不変の「健康を楽しみ 味わい 考えよう」です。

このテーマには、次のような思いが込められています。①参加者が健康を楽しみながら体を動かし快い疲労感の中で健康について自覚を高める。②赤ん坊からお年寄りまで家族そろって楽しめるまつり。③健康人だけでなく、病気療養の人も、障がい者も安心して参加できるまつり。④楽しさも、知恵も力も持ち寄ってみんなでつくる手づくりの市民のまつり。⑤個人、団体が企画を持ち寄って参加する。その準備の過程やまつりでの多くの人々とのふれあいの中で交流を深め、健康を願う団体の組織発展の契機とする。⑥コロナを越えて手をつなごう！地域とつながろう！健康寿命を延ばそう！

当日は、残念ながら朝から雨でしたが、足元が悪い中650名の方が参加し、まつりを楽しみました。メインステージでは、体操にはじまり、商店街地元小学校の吹奏楽や3歳から12歳のダンスが披露されました。健康チェックコーナーでは、医師による健康相談や血圧、血糖、血管年齢、骨密度などの測定が行われました。毎年人気の親子木工教室、似顔絵、こどもの広場では、たく

さんの笑顔がみられました。今年は、感染対策を十分にを行い飲食バザーを復活させ、多くの参加者のおなかを満たしました。

健康まつりは毎年5月の第2日曜日に開催しています。来年も様々な意見を参考にしながら工夫してまつりが開催出来ればとおもいます。また来年、元気にお会いしましょう！



# 診療報酬改定について

医療サービス課 後藤 史郎

残暑厳しい頃かと存じますが、お身体の方はいかがでしょうか。ちなみにこの文章を考えているのは梅雨頃になります。新型コロナウイルスも猛威を振るっており、依然として気候と相談しつつ、マスクの着用などの基本的な感染対策を実施していくしかない状況です。

さて、受診者としても医療従事者としても、どんよりする話題ですが、紙面の一部を拝借しまして、診療報酬についてお話をさせていただきます。例年2年に1度、厚生労働省によって、診療報酬の改定が行われますが、これにより毎月支払っていた医療費が変動する事は、受診をされる側にとっての関心事でしょうし、計算をする側にとっても、先月までの規則、常識がひっくり返される…というのは少々大げさかもしれませんが、そう言ってしまうくらい厄介なイベントです。ただ、ここ4年間は、ほぼほぼ新型コロナウイルス感染症にまつわる加算や検査項目についての変更が主眼となっておりましたので、さほど大きな変化はなく、強

いて言えば、マイナンバーカードと保険証の紐づけが始まったことくらいでしょうか。その時にも1点、2点と点数が変動した結果、医療費に変化が無い方、10円上がる方、下がる方がいらっしゃいましたが、今回の改定では、保険点数が大きく変動しました。その最たるものが、生活習慣病管理料Ⅱです。これは元々、特定疾患療養管理料(87点)を算定していた方の内、『高血圧症』、『糖尿病』、『高脂血症』について治療、投薬を受けている方に関しては、本年6月より特定疾患療養管理料の算定ができなくなりました。その代わりに、個々人の生活習慣に応じた目標設定などの療養計画を策定し、療養計画書を作成。栄養指導などを交えた総合的な治療・管理を行うこととし、その受け皿として新設された管理料となります。点数の変動については図1をご参照ください。図2は保険割合における金額の変動です。紙幅にも限りがございますので、疑問に思われるところや、毎月の医療費に心配のある方は、お気軽に医療サービス課へご相談ください。

図1

再診料	73	再診料	75
外来管理加算	52	外来管理加算	0
特定疾患療養管理料	87	生活習慣病管理料	333
処方箋料	68	処方箋料	60
特定疾患処方管理加算2	66	特定疾患処方管理加算2	0
一般名処方加算1	7	一般名処方加算1	10
総点数	353	総点数	478

図2

保険負担割合	1割	2割	3割
	130円↑	250円↑	380円↑

# 訪問診療で「住み慣れた場所で療養したい」を支えます!!

外来師長 秋吉 明子

当院では、病気や障害で通院が難しい方やがんなどの病気があっても最期まで住み慣れた場所で過ごしたい方などに、医師が定期的にお住まいの自宅や施設に訪問し診察する訪問診療を行っています。訪問診療をされている医療機関は増えていますが、当院では住み

慣れた場所での看取りや外来通院中の患者さんの緊急時の往診などもご要望に応じて行っています。また、引きこもりや認知症などで医療や介護サービスにつながりにくい方などのご相談にも応じ、地域のSOSにも真摯に対応します。

通院が難しい方



在宅での看取り



引きこもり



## <訪問エリア>



### 訪問診療開始までの流れ

電話で相談

担当者による面談・必要書類の提出

外来で必要な検査の実施

訪問診療開始

※当院以外を通院されている方は紹介状が必要になります



4月に訪問診療車を一新しました(^)o(^)

まずはお電話でご相談を  
くわみず病院  
TEL.096-381-2248  
担当者:外来師長 あきよし

# 地域医療部が本館1階に移転しました。

地域医療部次長 山田 奈保美

私たち地域医療部の役割は地域の方々や地域の医療機関・福祉機関との連携、医療相談業務、入院患者様の退院支援、外来検査予約センター業務、地域活動への参加など多岐に渡ります。地域と病院を繋ぐ架け橋として日々活動しています。

これまでは別館2階の総師長室と同じ部屋で仕事をしていたのですが、この度本館1階の健診センターがあった場所にリニューアル移転いたしました。

外来フロアの仲間入りをしたので、受診に来られた

患者様、ご家族の方や地域の方々に気軽に立ち寄って来ていただける場所になるといいなと思っています。医療費や生活費など生活相談、各種保健福祉制度の利用案内など医療ソーシャルワーカーが対応させていただきます。

また新しくカンファレンスルームを設けました。他医療機関や介護施設の方々との懇談や患者さんのカンファレンスの場としてだけでなく、学習会など様々な用途に活用していければと思っています。

受付カウンターには債務整理や介護情報誌、宅配食事サービスパンフレット、また生活再建に関する相談窓口の情報など置いています。更には、飲酒習慣の評価ができる自己診断テストも置いていますので、ぜひお立ち寄りください。



カンファレンスルーム



各種情報コーナー



笑顔あふれる総勢6名で頑張っております。



検査予約窓口

## 健診センターリニューアルについて

健診センター 藤本 麻美

くわみず病院健診センターは、2004年5月のくわみず病院リニューアルに伴う設置以来、20年ぶりにリニューアル致しました。場所は今年3月に閉科した小児科へ移設し、以前よりも全体的に広くなり、大きな窓で日が差し込み明るい空間になりました。問診票記載用のテーブルやテレビを新たに設置し、見やすくなった掲示物コーナーには「今月の健康ポイント」の掲示を始めました。皆様に健康に関心を持っていただけるようにと作成しております。身体測定・問診・特定保健指導室がより一層プライバシーに配慮できるようになり、各検査へのご案内ルートも変わり、効率よく健診を受けて頂けるようになりました。

当センターでは協会けんぽ、法定健診、熊本市の特定健診、肺がん・乳がん・子宮がん検診、胃部検査(胃透視、胃カメラ)、人間ドックなどを受けており、同日に一般健診と婦人科検診が受けられます。また特化物・有機溶剤・溶接ヒューム・アスベスト検診などの特殊健診、歯科検診も同日可能です。レントゲン車も保有していることから特定の企業や関連の組合員様向けの集団健診も実施しております。

今年度から予約についてホームページより企業情報シートや受検者申込書のデータをダウンロードできるようになり、これまで通りお電話・メール・FAXでの

受付ができ、どんな方でも分かりやすく予約できるシステムとなっております。また新たな取り組みとして、1泊ドックは、宿泊施設として近隣のホテルを利用していただくことになりました。健診後もパニック値の方や二次精査が必要な方のフォローにも力を入れています。リニューアルを機に満足度を更に高めるためにもアンケート実施を予定しており、皆様に安心して健診を受けていただけるよう更に努力してまいります。今後ともくわみず病院健診センターを宜しくお願い致します。



掲示物



健診センター入口



測定・指導室

## 駐車場管理委託について

総務課 神崎 光明

今年の11月より、当院駐車場(第1～第3駐車場)を外部管理業者へ委託運営することとなりました。目的は、当院の外来等を受診されない方々の駐車が多く、本来、外来等受診したい患者の自家用車が駐車できない状況があることから、外部管理委託することとなりました。外来受診等の患者さまには、会計時に無料券を発行いたします。概ね外来受診以外の方が駐車場をご利用される場合は有料となります(右記ご参照)。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

管理方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲート不要なカメラ式の導入</li> <li>外来等受診者には、会計時に無料券を配布いたします。</li> <li>外来受診者以外の方は有料となります。</li> </ul>
管理委託会社	タイムズ24株式会社
利用者負担料金	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来患者、健診受診者 無料</li> <li>無料券発行対象者 無料</li> <li>入院患者 1日500円</li> <li>お見舞いの方 60分ごとに200円</li> <li>職員その他の方 8:00～17:00 30分ごとに500円</li> <li>17:00～8:00 60分ごとに200円</li> <li>17:00～8:00 最大料金 400円</li> </ul> ※ただし、いずれの場合も30分まで無料
開始時期	2024年11月より

## 研修医師紹介

医師 荒木 さくら

初期研修医2年目の荒木さくらです。母親が菊陽病院やそのグループホームで勤務していたご縁から、熊本県民医連の奨学生になりました。大学は岡山大学を卒業し、昨年4月宮崎生協病院に入職し、初期研修を開始しました。宮崎生協病院では、内科の研修として入院患者さんを担当させていただきました。いざ働きますと、病院の仕組み、実際の治療の進め方など分からないことだらけでした。そんな中でしたが、入院された患者さんが、退院できるまでに回復される様子には、医療の力と人間の生命力とを感じました。初期研修1年目が終わり、今年4・5月には熊本に戻り、くわみず病院での研修をさせていただきました。不慣れた部分もあったと思いますが、患者さん含めスタッフの皆さんが優しく対応してくださりありがたかったです。

来年の4月からはくわみず病院勤務となる予定ですので、見かけた際には声をかけてください。どうぞよろしくお願いいたします。



# 水俣協立グループは新たな一歩を踏み出します

水俣協立病院 事務長 打上 里美

日々夏の暑さが増していく中、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか？

水俣協立グループは、くわみず病院をはじめ熊本県民医連内事業所の医師、看護師、他多職種と共闘し水俣病検診他、社会的な問題にも取り組んでまいりました。民医連の仲間の団結で、医療介護活動をはじめとした様々な運動への取り組みを実践できていることに心より感謝いたします。

さて、私事ですが2024年4月、水俣協立病院事務長を拝命しました。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、2024年秋、水俣協立グループは全面リニューアルに着手致します。物価高騰の中での病院リニューアルは大変な重責であり、身の引き締まる思いであります。職員、地域の皆さまとともに一丸となり、リニューアル成功のため力を尽くしてまいります。皆さまのご支援をよろしくお願い致します。

協立病院グループの歴史を紐とけば、1974年1月、水俣病に苦しむ人々の思いから生まれた水俣診療所は、その後水俣協立病院へと発展し、2024年1月で50年の節目の年を迎えました。水俣病被害者救済の闘いと、地域の医療・介護・福祉を支えながら奮闘し、併設する神経内科リハビリテーション協立クリニックは、労災職業病の治療をはじめ、神経精神科機能も充実させ、身体も心もケアするクリニックへと発展。在宅総合ケアセンター協立は、居宅介護支援事業、訪問看護、訪問介護で地域の皆さまの在宅での生活を支える身近な存在として歩んでまいりました。

今後、水俣・芦北の医療圏では高齢化が進み、在宅生

活を支える医療・介護が欠かせない状況となります。私たちは、在宅のバックベッドとして地域包括ケア病棟(48床)を持ち、チーム医療を活かして、地域の医療機関、介護事業所と連携し、更なる在宅部門の充実をめざします。地域で暮らす人々の「自分らしく生きたい」を支え、人生に寄り添い、ご家族と、大切な人とともに歩いていく「ふだんは在宅、ときどき入院」を支える地域密着型多機能病院としての役割を果たし、地域医療に貢献していく所存です。

また、「公害の原点 水俣病」を経験し、現在も続く被害者救済に取り組んできた私たちだからこそできる、人と環境にやさしい社会を追求し、地域の発展にも貢献してまいります。

## ともに未来を築くために

水俣協立グループリニューアルは、コロナ禍やTSMC建設のあおりを受け、建築資材や人件費が高騰する中でのリニューアルとなりました。2024年1月から2億円を目標に地域協同基金と寄付のご協力をお願いしております。リニューアルでは、皆さまのご協力が大きな力となります。地域協同基金(上限300万円)は職員、友の会会員、社員の皆さまに呼びかけ、寄付はどなたでも可能です。

地域協同基金、寄付に関する詳細な手続きやお問い合わせは、くわみず病院総務課、または芳和会本部までご連絡下さい。

私たちとともに新しい病院の未来を築き上げていただけることを心より願っております。



新病院完成イメージ図

# 病院ホームページをリニューアルしました!

事務長 本高 勝久

2024年6月に病院ホームページ(HP)をリニューアルしました。多くの職員が各ページの記事の編集に携わり、1年がかりでようやく公開に漕ぎつけました。スマホにも対応しており、以前のHPより見やすく表示されます。ぜひ一度ご覧ください。サイト訪問者(患者・利用者、医療関係者、医療求職者)にとって親しみやすく、利用しやすいHPとするために、今後もよりよいものに磨き上げていきます。当院よりタイムリーに発信してほしい情報がありましたら、ご意見・ご要望等お寄せいただけますと幸いです。



<https://www.kuwamizu.jp/>



# 当院と協力関係にある介護施設等ご紹介

2024年度診療報酬改定に伴い、当院は以下の介護保険施設等から協力医療機関に定められています。月1回ZOOM会議を開催し情報共有に努めています。

介護老人保健施設	特別養護老人ホーム
コスモピア熊本	白川の里
第二コスモピア熊本	たくまの里
ケアポート益城	パウラスホーム
湧心苑	ひろやす荘

当院にご登録いただいている地域の先生方をご紹介します。(2024年6月現在)

クリニック名	医師名(敬称略)	クリニック名	医師名(敬称略)
いちぐちクリニック	一口 修	とくなが内科胃腸科外科	徳永 孝生
在宅・よろず相談クリニック	俵 哲	たかき消化器内科	高木 功
熊本ホームケアクリニック	井田 栄一	前田内科医院	前田 篤史
宮津内科クリニック	宮津 利加子	佐伯内科クリニック	佐伯 敬
庄野循環器内科医院	庄野 元/庄野 信	豊田消化器外科	豊田 徳明
水前寺公園クリニック	田中 智樹	末次内科	末次 理成
おびやま在宅クリニック	宮崎 久義	まつもと在宅クリニック	松本 武敏
いずみクリニック胃腸科・内科	泉 文治	むらかみ内科クリニック	村上 和憲
日赤通り谷崎MAクリニック	谷崎 俊哉	熊本田崎クリニック	西岡 宏晃/西岡 裕子
すえふじ医院	末藤 久和	八王寺町クリニック	林田 公夫
内田クリニック	内田 隆	田中内科クリニック	田中 英一郎
山本内科クリニック	山本 太郎	もりの木クリニック	矢野 まゆみ
川口内科クリニック	川口 祐司	小島内科小児科医院	小島 龍太郎
ほんだ耳鼻咽喉科	本田 達也	竹下外科・整形外科医院	竹下 一幸
平山ハートクリニック	平山 統一	こくぶ内科・胃腸内科	田中 朋史
わかばクリニック	片山 貴文/飯田 伸一	まえはらクリニック	前原 優一
	松山 正子/片桐 光浩	水前寺在宅クリニック	紀 武志
守屋医院	守屋 信英	みらいクリニック	嶋津 裕太郎
グレースメディカルクリニック	伊藤 信久	池上第2クリニック	池上 研